

研究主題等 理科の見方・考え方を働かせて資質・能力を育み、豊かな未来を切り拓く理科教育 ～生徒の主体的な学びや科学的な探究活動を通して、持続可能な未来を創造する理科教育～

I 団体の概要

本研究会は、東京都内の公立中学校の全理科教員が会員となり、理科教育に関して研究している会です。3部4委員会を設け、定期的に研究活動を行い、理科教育の振興と会員相互の親睦を図っています。

II 団体の取組み

- 5月 定期総会・役員会 全中理機首役員会
- 6月 役員会 関中理理事会（横浜）
- 8月 現地研修会（プラスチックリサイクル工場）
全中理北海道大会
役員会・夏季研修会
- 10月 現地研修会（地下冷暖房施設見学）
- 11月 役員会・会員研究発表会
- 12月 役員会・冬季研修会・開発教材コンテスト
1月 実技研修会・生徒理科研究発表会
2月 都中理報告会・役員会・代表理事会
3月 都中理研究会誌発行

北海道大会発表の様子



III 研究の方法

教育課程委員会、学習・評価委員会、観察・実験委員会、環境教育委員会の4つの委員会が、それぞれテーマに沿った研究を行い、会員研究発表会等で発表しています。研究部は会員研究発表会、生徒理科研究発表会を実施しています。博物館連携は活動の内容を広げながら継続中です。また、研修部は年2回の若手・中堅教員向けの研修会を実施し、さらに今年度は都中理研究員制度を復活しました。広報部は、研究会誌の発行と開発教材コンテストを実施しています。観察・実験委員会は実技研修会も実施しています。

IV 研究の内容(会員研究発表会より)

- 都中理 環境教育委員会
「生態系を守るためにできること」
- 都中理 観察・実験委員会
「既習の知識と日常生活をつなぐ理科の学び」
電磁誘導によるワイヤレス充電のしくみを考える授業の開発
- 都中理 教育課程委員会
「自由進度学習を取り入れた個別最適化の学習
～教育課程を考えた様々な手法～」
- 都中理 学習・評価委員会
「個別最適な学びの実現に向けた指導の工夫
～ワンルーム習熟度別授業～」



○都中理 博物館連携プロジェクト

「おうちで体験！かはくVR」を授業に取り込む実践の提案
 ※会員研究発表会の結果を踏まえ、令和8年度全中理奈良大会での研究発表者の推薦対象者を決定します。

【開発教材コンテスト】

先生方がオリジナルで開発した教材の発表を行っています。
 都中理研究会誌及び都中理HPに、教材の写真と紹介文を掲載します。

【博物館連携プロジェクト】

国立科学博物館を校外学習等で利用する際、楽しく有意義に学習できるように、国立科学博物館と都中理が協働してワークシートを作成しています。新たなメンバーでの活動や、VRを使って教室でワークシート活用など新しい取り組みも行っています。

V 全中理北海道大会への参加

第72回全国中学校理科教育研究会 北海道大会

開催期間 令和7年8月6日（水）～8月8日（金）

会場 北海道教育文化会館
 ホテルライフオート札幌

研究主題 理科の見方・考え方を働かせて資質・能力を育み、豊かな未来を切り拓く理科教育

大会主題 学びの再構築を通して、自然との共生に向かう理科教育
 本研究会（都中理）の発表

第1分科会【教育課程】

「電池分野における粒子モデルの理解を深める単元構成の工夫
 金属箔を利用した実験教材と探究の過程を繰り返す学習活動を通して」

第2分科会【学習・評価】

「個別最適な学びの実現に向けた指導の工夫
 ～ワンルーム習熟度別授業～」 （学習評価委員会）

VI 成果と課題

昨年度と同様、研修会や研究会をリアルで開催することができた。対面でのやり取りからネットワークの再構築、情報交換などに一定の手応えを実感できた。全中理北海道大会の分科会では、全国の熱心な若手教員の姿が散見され若手の会も盛況であった。都中理としても若手の研究仲間の発掘が急務である。本年度は若手の研究を支援するために都中理研究員制度も復活した。持続可能な研究組織の構築が必要である。委員会組織の在り方も含め次年度以降の大きな課題である。

＜令和7年度連絡先＞

団体名		東京都中学校理科教育研究会	
代表者	所属	江戸川区立松江第四中学校	
	職氏名	校長 鶴澤 伸一	
	連絡先	03-3652-7591	
事務局	所属	豊島区立千川中学校	
	職氏名	校長 牧野 崇	
	連絡先	03-5995-6150	
団体ホームページ	URL	https://www.tochuri.net/	二次元コード
			